

基礎研 レポート

中国において P2P 保険が急速に普及する理由

—中国「ネット互助プラン」が保険事業に与える影響に関する調査

保険研究部 准主任研究員 片山 ゆき
(03)3512-1784 katayama@nli-research.co.jp

1—はじめに

インシュアテック(InsurTech)を代表するものの1つとして、P2P 保険(peer to peer insurance)が海外で一定の顧客のニーズを取り込んでいる。その中で、今後、インシュアテックや P2P 保険の成長が既存の保険事業にどのような影響を与えるかも注目されている¹。ニッセイ基礎研究所は、海外の中でも中国に注目し、急速に普及する背景や今後の成長シナリオを考察するために WEB にてアンケート調査を行った²。本稿では、その調査結果から、まず、加入状況、加入者像、加入背景などを分析し、中国でなぜ普及が進んでいるのか、その全体像を捉えることとする³。

中国における P2P 保険のこれまでの大まかな動きについて概説しておく。中国における P2P 保険の勃興は 2011 年まで遡る。欧米の P2P 保険に類似した「ネットワーク互助計画」(ここでは「ネット互助プラン」⁴とする)の加入者は順調に増加したが、2016 年に当時の保険当局が行き過ぎた販売行為や運営を規制したことから一端下火となった。しかし、2018 年 10 月にアリババ・グループが「相互保」(現在の「相互宝」)を発表すると、「割り勘で後払い」という新しいスキームによって、再度注目されることとなった。なお、相互宝の加入者はローンチ

¹ IAIS (2017) 「FinTech Developments in the Insurance Industry」

² 本調査の調査対象者は、中国における一線都市から四線都市に居住し、1960 年代生まれ～2000 年代生まれの各世代(主に 10～50 代)の男女で、株式会社インテージの提携会社のモニター会員である。性年代別の割付は中国の国勢調査(「人口普查」)に基づいている。調査期間は 2020 年 8 月 7 日～8 月 20 日。有効回答件数は 1,400。なお、中国では、プラットフォーム等が提供し、欧米の P2P 保険に類似したスキームを持つ「ネットワーク互助計画」は、監督管理上、保険には分類されていない。よって、本稿では中国語の「ネットワーク互助計画」を「ネット互助プラン」と邦訳して使用する。

³ ネット互助プランの仕組みは各社で細かく異なるため、本調査では加入者 1 億人と最も規模が大きく代表的な「相互宝」(がん・重大疾病保障)を中心に分析を行う。「相互宝」の仕組みや特徴については基礎研レター「[加入者が 1 日 100 万人?アリババ会員向け重大疾病保障とは?](#)」(2018 年 11 月 12 日発行) 参照。なお、本稿に続き、今後、「相互宝」の加入者特性・加入効果、民間保険事業への影響などについて報告予定。

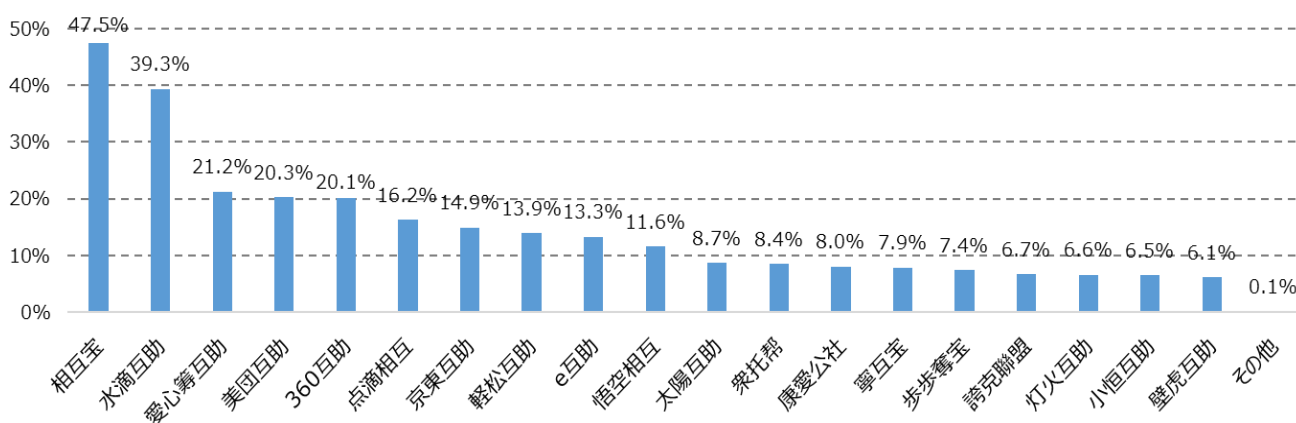
⁴ 注釈 2 参照。

後およそ1年で1億人に達している⁵。大手プラットフォームもこれに追随している。このような状況から、アリババ・グループは、2019年のネット互助プランの加入者は1.5億人に達し、2025年までに加入者合計は4.5億人にまで拡大すると予測している⁶。なお、調査時点で、ネット互助プランの多くは、重大疾病を給付対象としている。

2—【加入状況】全体の88.1%がなんらかのネット互助プランに加入。一方、既存の民間保険(重大疾病)の加入は25.0%。「相互宝」の加入が最も多いものの、複数加入の傾向が見られる。

まず、加入状況を把握するために、現在加入しているネット互助プラン(その他を含め20種)をたずねた。その結果、全体の88.1%が何らかのネット互助プランに加入していることがわかった⁷。ネット互助プラン20種(その他を含む)のうち、加入が最も多かったのが「相互宝」(47.5%)で、次いで「水滴互助」(39.3%)、「愛心筹互助」(21.2%)となった(図表1)⁸。加入が最も多かった相互宝については、「相互宝のみ加入」は10.5%にとどまったが、「相互宝&その他にも加入」は37.0%を占めた。全体に占めるネット互助プランへの加入割合が高い上に、複数加入の傾向が見られることが分かった。

図表1 ネット互助プラン20種(その他を含む)の加入状況(複数選択/n=1,234)



(注) 京東互助、灯火互助は閉鎖となっている。

⁵ 相互宝(当初は「相互保」)は、当初、アリババ・グループ傘下の信美人寿相互保険会社が当局に重大疾病団体相互保険として届け出していた。しかし、当局は、当初届け出た約款内容と商品が異なること、販売におけるミスリーディングといった点を懸念。信美人寿社と当局が協議し、市場投入1ヶ月後の2018年11月には是正を指示した。それによって、名称については、「相互保」という保険を連想させる商品名をやめ、保(bao)と同じ発音である宝(bao)を使用した「相互宝」とした。また、相互宝は相互保険には該当しないと、信美人寿社も引き受けから撤退した。

⁶ 蚂蚁集团『网络互助行业白皮书(2020年)』

⁷ 「何らかのネット互助プランに加入している」は100%から「加入していない」の選択割合を引いた値

⁸ 相互宝はアリババ・グループ傘下の金融会社アント・グループ、水滴互助は治療費を広く社会から募るクラウドファンディング事業や保険仲介業も営む水滴公司、愛心筹互助については水滴互助と同様、治療費のクラウドファンディング事業に端を発する愛心筹が運営している。なお、水滴互助にはWechatなどSNSを主力とするテンセント・グループも出資している。

一方、同じ民間保障分野として、既存の民間保険の加入状況についても確認してみる。調査結果から、何らかの民間保険に加入しているのは全体の 56.1%となっており⁹、半数を超えてはいるものの、わが国に比べれば民間保険が広く普及しているとは言えない段階にある。また、多くのネット互助プランと同様に癌などの重大疾病を給付対象とし、保険会社が販売している重大疾病保険の加入状況をみると、加入率は全体の 25.0%にとどまった。医療保険(実損填補型)についても 21.2%、高額給付を目的としたネット医療保険も全体の 14.1%であった。中国の民間保険市場、特に医療・疾病保険の分野は近年急成長している¹⁰。しかし、加入率は民間保険全体でも 5 割台、重大疾病保険も 2 割台に留まることから、ネット互助プランは既存の民間保険よりも更に早いスピードで加入が進んでいると考えられる。加えて、調査時点では、保障内容が重大疾病を中心としている点から、欧米で見られるようなニッチではなく、むしろ「マス」(大衆)の保障ニーズに適合した商品を展開していると言えよう。

3—【加入者像】 加入者の7割を 1980 年代生まれ(30 代)以下で構成。6 割が地方都市の居住者で、世帯月収は2万元(約 32 万円)以下。ネット互助プランの月額負担は 7 割が 39 元(約 620 円/1人あたり)以下と低額に抑えられている。

次に、ネット互助プラン加入者の特徴を捉えてみたい。

まず、ネット互助プランの加入者の年齢構成をみると、30 代を中心とする 1980 年代生まれの世代が 36.8%、20 代を中心とする 1990 年代生まれの世代が 19.8%、10 代を中心とする 2000 年代生まれが 14.3%を占めており、30 代以下が加入者全体の 70.9%を占めた(図表2)。

図表2 加入者の出生年代(加入の組合わせ別) (複数選択) (%)

	TOTAL	60年代 生まれ	70年代 生まれ	80年代 生まれ	90年 生まれ	2000年 代生まれ	その他
TOTAL	1400	11.6	18.8	35.1	20.1	14.3	0.0
ネット互助プランに加入	1234	11.4	17.7	36.8	19.8	14.3	0.0
相互宝のみ加入	130	18.5	20.0	23.8	23.1	14.6	0.0
相互宝以外に加入 (複数選択可)	648	10.6	17.0	38.1	19.1	15.1	0.0
相互宝&その他にも加入	456	10.5	18.2	38.6	19.7	12.9	0.0
非加入	166	13.3	26.5	22.9	22.9	14.5	0.0

(注) 図表において色を付している数値は、分析内容で触れた内容である。

⁹ 重大疾病保険のみならず、養老、年金、介護、その他を含め 13 種の民間保険のうち何らか 1 件でも加入しているケースを指している。「何らかの民間保険に加入している」は 100%から「加入していない」の選択割合を引いた値。

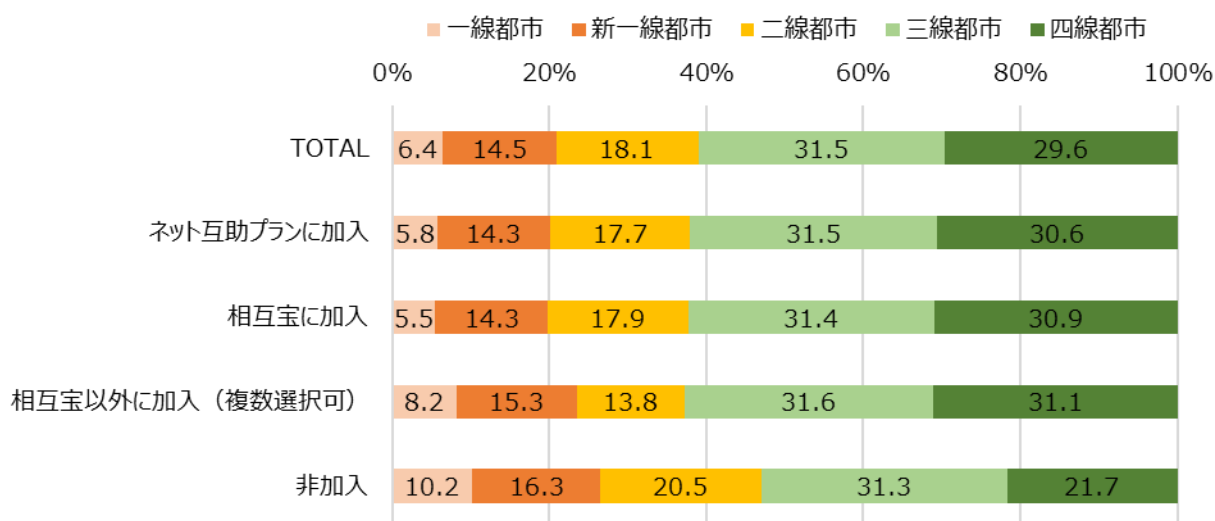
¹⁰ 中国において、医療、疾病、介護、所得保障、傷害を含む「健康保険商品」は、近年、収入保険料が前年比 2 桁の伸び率で急増し(2019 年は前年比 26.3%増、2018 年は前年比 23.3%増。メインは重大疾病保険、医療保険)、2019 年は保険料収入総額のおよそ 2 割を占めている。

また、加入者の出生年代に、回答者全体と比較すると、「ネット互助プランに加入」では 30 代を中心とする 1980 年代生まれが回答者全体よりも 1.7 ポイント高く、加入割合が高いと言えよう。加入の組合せ別にみると、「相互宝のみ加入」では 20 代を中心とする 1990 年代生まれが回答者全体を 3.0 ポイント上回り、加入割合が高い。50 代を中心とする 1960 年代生まれが回答者全体よりも 6.9 ポイント高い点については、1990 年代生まれ、2000 年代生まれといった子ども世代による加入、または 60 歳以降加入が可能な高齢者向け癌プラン¹¹への加入切り替えといった点の影響もあると推察される。「相互宝以外に加入(複数選択可)」「相互宝&その他にも加入」については、1980 年代生まれが全体よりも 3.0~3.5 ポイント高く、その他の世代と比較しても複数加入が多い世代と考えられる。

地域の所得格差や経済格差が大きい中国では、普及度合いを見る上で加入者がどこに住んでいるのかも確認する必要がある。本調査によると、加入者の分布は、地域の中核都市に相当する「三線都市」¹²が 31.5% で最も多く、更に規模の小さい「四線都市」(30.6%)を含めた 62.1% が地方都市に居住している(図表 3)。

北京や上海といった一線都市では「非加入」が 1 割を超え、回答者全体より 3.8 ポイント上回っている。新一線都市を含め、大規模都市では加入が進んでいないことが分かった。また、「ネット互助プランに加入」では回答者全体との差は見られないものの、「相互宝以外に加入」は「相互宝に加入」に比べて、一線都市(+2.7 ポイント)、新一線都市(+1.0 ポイント)など大都市での加入が進んでいるという特長も捉えることができた。

図表 3 居住地分布 (加入組合せ別)

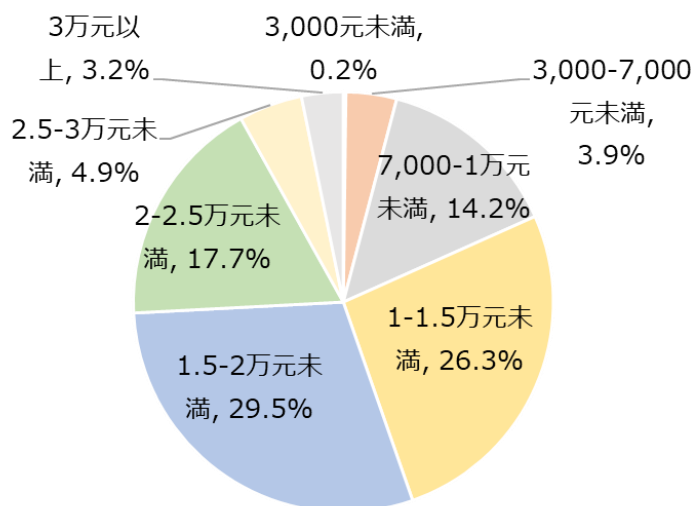


¹¹ 相互宝は 2020 年 7 月時点で、加入対象別に 3 種類ある。生後 30 日から 59 歳までを対象とし、主に癌などの重大疾病 100 種類を保障対象とした「重大疾病互助プラン」(2018 年 10 月~)、60 歳から 69 歳の高齢者の癌を保障対象とした「高齢者向け癌プラン」(2019 年 5 月~)、慢性疾患の患者向けに癌を保障対象とした「慢性疾患患者向け癌プラン」(2020 年 5 月~)である。

¹² 人民ネット日本語版によると、三線都市は「比較的発達した中小都市、戦略的な意義をもつ大中都市、経済規模が大きい小都市を指す」としている。また、一線都市については「全国的な政治活動や経済活動などの社会活動で重要な地位にあり、指導的役割を備え、波及力・牽引力をもった大都市を指す。その地位や能力は主に都市の発展水準、総合的な経済的実力、波及力・牽引力、人材吸引力、情報交流の力、国際競争力、科学技術イノベーション力、交通の発達といった各方面に体现される。一線都市は生産、サービス、金融、イノベーション、流通などの全国的な社会活動の中で、牽引役を担ったり、波及効果をもつなどの主導的役割を果たす」としている。

更に、世帯月収については、1.5-2 万元未満(24-32 万円未満)が構成比としては最も大きい 29.5%を占め、次いで1-1.5 万元未満(16-24 万円未満)が 26.3%を占めた。1-2 万元未満の世帯月収層が 55.8%とおよそ6割を占めた(図表5)。なお、世帯月収の平均値は 16,154 元であった。会社員の平均世帯月収が 9,000 元ほどと考えると、加入者の多くが平均以上の収入を得ていることになる¹³。

図表 4 世帯月収分布



では、ネット互助プラン加入者の毎月の負担額はどれくらいであろうか。調査結果から、20-29 元(320-460 円)が 29.2%と最も多く、次いで 30-39 元(480-620 円)が 25.3%を占めた(図表 5)。上掲の世帯月収の状況を考えると、ネット互助プランは月額負担が相対的に低額であろう。

図表 5 月額負担 (加入の組合わせ別) 複数選択 (%)

	TOTAL	1~9元	10~19元	20~29元	30~39元	40~49元	50元以上
ネット互助プランに加入	1234	6.2	13.9	29.2	25.3	11.8	13.7
相互宝のみ加入	130	25.4	17.7	32.3	8.5	8.5	7.7
相互宝以外に加入 (複数選択可)	648	4.5	14.5	30.4	26.1	11.9	12.7
相互宝&その他にも加入	456	3.1	11.8	26.5	28.9	12.7	16.9

¹³ 中国国家统计局によると、2019 年の都市部の会社員の平均年収は 53,604 元であった。これに基づくと、1 人あたりの平均月収は 4,467 元となる。中国では夫婦共働きが主流であることから、世帯月収は 9000 元ほどとした(出典：http://www.stats.gov.cn/tjsj/zxfb/202005/t20200515_1745763.html)。なお、国家统计局によると、2019 年の低収入層に属する世帯人口は 6.1 億人、平均年収は 11,485 元と発表している。平均月収は 1 人あたり 957 元と 1,000 元ほどとなる(出典：http://www.stats.gov.cn/tjsj/sjjd/202006/t20200615_1760268.html)。

一方、月額負担について、加入の組合せ別にみると、「相互宝のみ加入」の場合は、1-9 元(25.4%)が全体より 19.2 ポイント上回り、低額負担の選択割合が高かった。加えて、10-19 元が全体より 3.8 ポイント、20-29 元も 3.1 ポイント上回っている。「相互宝&その他にも加入」については 30-39 元が全体よりも 3.6 ポイント、50 元以上についても全体より 3.2 ポイント上回った。

負担額が分散している背景には、相互宝は加入対象者別に3種類¹⁴あり、加えて、加入者が自身の家族などを含め複数加入している点が挙げられる。家族については、加入者自身の配偶者(18-59 歳)、直系の父母(59 歳以下)、子女(17 歳以下)の加入が可能である。よって、「相互宝のみ加入」で、加入者自身のみの加入の場合の負担額は、1-9 元が最も多いと考えられる。「相互宝のみ加入」、「相互宝&その他にも加入」において、選択回答が分散している背景には、加入対象別の3種類の相互宝の負担額がそれぞれ異なる点や、加入者が家族分の費用を負担している点があると考えられる。

4——【加入背景】加入理由では、病気への備え、少ない負担、仕組み・透明性の高さを重視。加入者の7割が癌など重大疾病にかかった際の治療費(自己負担分)を準備するのが難しい状況。

では、ネット互助プランがこのように広く受け入れられる背景には何があるのでしょうか。ネット互助プランの仕組みは各社で細かく異なるため、以下では加入率が高く代表的なネット互助プランである「相互宝」の加入理由に基づいて考察する。

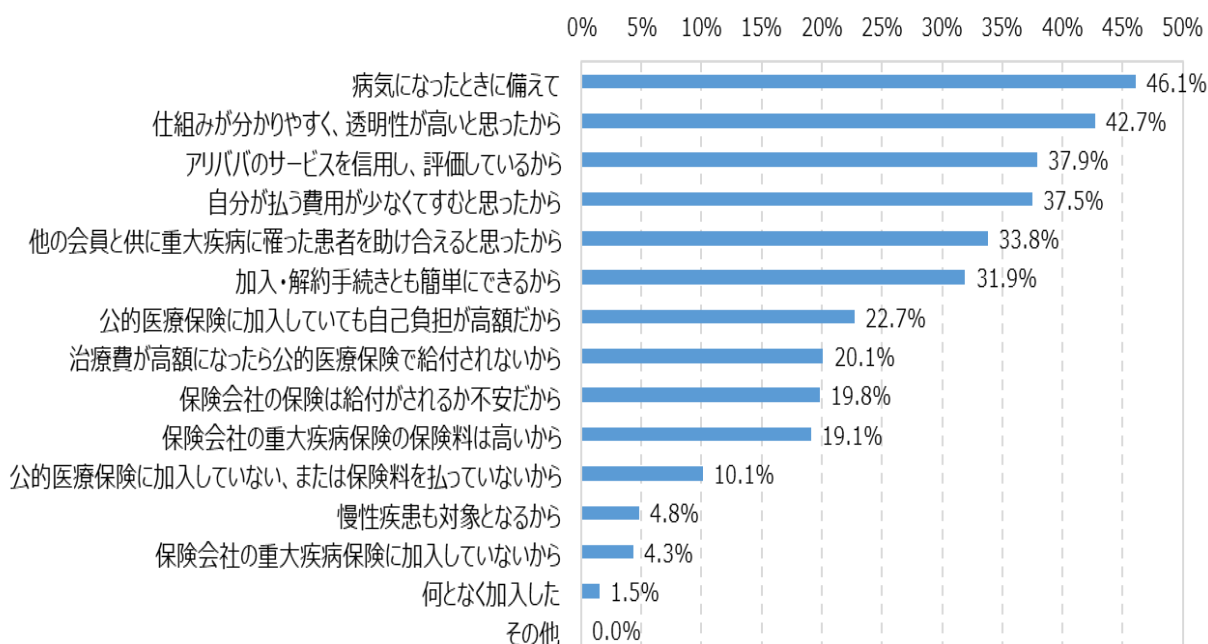
「相互宝」の加入理由をたずねたところ、「病気になったときに備えて」(46.1%)が最も多かった(図表 6)。次いで、「仕組みが分かりやすく、透明性が高いと思ったから」(42.7%)、「アリババのサービスを信用し、評価しているから」(37.9%)となった。また、「自分が払う費用が少なくすむと思ったから」(37.5%)がそれに続いており、病気になったときの備えを少ない負担で用意したいというコスト面が重視されている点が推察される。加えて、信用、評価、透明性の高さといった、保障提供側(アリババ)への信頼度も重要な要素であることがわかった。

その一方で、既存の保障制度である公的医療保険に関連するものとして、「公的医療保険に加入していても自己負担が高額だから」が 22.7%、「治療費が高額になったら公的医療保険で給付されないから」が 20.1%を占めている¹⁵。また、民間保険については、「保険会社の保険は給付がされるか不安だから」が 19.8%、「保険会社の重大疾病保険の保険料は高いから」が 19.1%を占めた。ネット互助プランの普及は、公的医療保険における自己負担の高さ、私的保険における保険者と保険契約者の信頼構築といった競合相手の課題も後押ししていると考えられよう。

¹⁴ 注釈 12 参照。

¹⁵ 中国の公的医療保険制度には、日本の高額療養費制度に相当する制度がある。しかし、多くの地域では給付に限度額を設けており、給付申請に際しては高額な自己負担額を設定しているケース(都市の非就労者・農村住民が加入する公的医療保険制度)もあり、制度はあるものの、その恩恵が加入者に伝わりにくい状態にある。

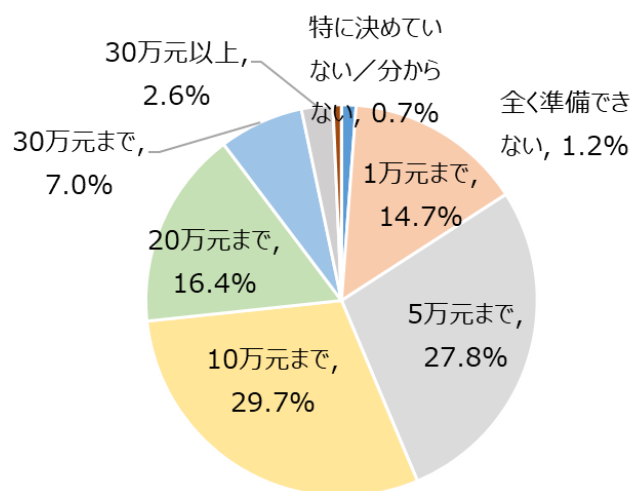
図表 6 「相互宝」の加入理由（複数選択/ n = 586）



「相互宝」への加入理由として、「病気になったときに備えて」(46.1%)が最も多かったが、では自身が病気になった場合、治療費(自己負担分)といった金銭的な準備はどれくらいできると考えているのであろうか。

調査では、1年以内に病気にかかった場合、およそどれだけの治療費(入院費・薬代など自己負担部分)が準備できるかをたずねた。その結果、「10 万円(160 万円)まで」が 29.7%と最も多くを占め、次いで「5 万円(80 万円)まで」が 27.8%を占めた(図表 7)。

図表 7 準備可能な治療費



参考値となるが、アリババ・グループによると、癌など罹患率の高い重大疾病の平均治療費¹⁶はおよそ 33 万円、公的医療保険による給付を差し引いても平均して 13.2 万円(約 211 万円)の自己負担が必要であると

¹⁶ 螞蟻集団『ネットワーク互助行業白皮書(2020年)』

している。これに基づくと相互宝の加入者のうち、準備額が「1万円まで」及び「5万円まで」を加えた「10 万円以下」となる 73.4%は、治療費を十分に準備することが難しい状況にあるとも考えられよう。

中国の医療保障体制下では、公的医療保険が適用されても自己負担が高い上、それを補完・補填する民間の疾病保険、医療保険も広く普及しているとは言い切れない。金銭的に準備できる費用も十分とは言えない中で、地方都市では、少ない負担で加入可能な重大疾病保障を中心とするネット互助プランの加入が進んだと推察される。

5—おわりに

本稿では、中国で「ネット互助プラン」が普及する理由について、加入状況、加入者像、加入背景から、その全体像を捉えた。

調査結果から、欧米の P2P 保険に類似する、中国の「ネット互助プラン」は、地方都市に住む 30 代以下を中心に加入が進んでいる。調査対象者のうち全体の 88.1%が何らかのネット互助プランに加入し、加入が最も多かったのが「相互宝」、次いで「水滴互助」、「愛心籌互助」となった。一方、同じ民間保障分野として、多くのネット互助プランと同様に癌などの重大疾病を給付対象とし、保険会社が販売している重大疾病保険の加入状況を見ると、加入率は全体の 25.0%にとどまった。

ネット互助プランの加入背景には病気への備えを少ない負担で用意したいというコスト面と、仕組みの分かりやすさ、透明性の高さといった保障提供側と加入者の信頼関係が重視されている状況を捉えることができた。加えて、公的医療保険の自己負担の高さ、民間保険がまだ広く普及していないという現状から、ネット互助プランがニッチではなく、むしろマス(大衆)の保障ニーズに適合した商品(重大疾病保障)を少額の負担で展開したため、広く普及したと推察される。

なお、次稿ではネット互助プランの中でも加入者が最も多い「相互宝」に焦点を当て、中国におけるネット互助プランの加入者の特性、加入効果などの分析を行う予定である。